

コミュニティバス（きぼう号）の現状と課題

大和高田市内には、3路線の鉄道（JR 和歌山線・近鉄大阪線・近鉄南大阪線）があり、鉄道駅と主要施設および居住地を結ぶ、奈良交通の路線バスおよび本市のコミュニティバスが運行されており、市民の重要な移動手段となっている。

現在のコミュニティバスは、1路線で内回り・外回りの2系統（2台）で運行されており、利用者にとって、行き先やバス停順は比較的分かりやすい反面、1循環約2時間と移動に時間がかかり、地域によっては利用しやすい時間帯に対応しきれていないなど課題があがっている。

また、かつては県中部の商都として、大勢の買物客で賑わった市中心部も高齢化や郊外型商業施設との競合により、空洞化が懸念され、活性化を図る必要がある。

さらに、現行の路線ではカバーできていない交通空白地区の解消も望まれているところである。

本市は、核家族化と高齢化が進んでおり、コミュニティバスは、自家用車で移動できない交通弱者となる方たちの貴重な移動手段としての役割が重要と考えております。現在の利用者にとって、行き先やバス停順は比較的分かりやすい反面、地域・区間によっては時間がかかり、必要な時間帯に対応していない、また公共交通空白地の課題などがあがっております。こうしたことから、バス路線系統とバスの台数を増設し、より利便性を高めていく必要があると考えます。